

▽葛綿 正一 教授 KUZUWATA Masakazu



学 科： 総合文化学部日本文化学科  
 担 当： 日本文化論、日本文学概論、演習、卒業論文演習  
 基礎演習、  
 日本古典文学特論(大学院)

学歴等のプロフィール

① 【 主要学歴 】 ②【 学 位 】 ③【 所属学会 】 ④【 主要な社会的活動 】

- ① 東京都立大学大学院人文科学研究科博士課程単位取得退学
- ② 修士
- ③ 中古文学会、中世文学会、日本文学協会

教育活動等

主な教育活動	年月日	摘要
葛綿正一 1. 教育活動・方法の実践例 ① 日本文化論 ② 演習 ③ 論文審査	2010年  2010年  2010年	前期、日本文化学科専門科目、約150名登録、ビデオ教材を活用し、日本文化に対する関心を深めた。  通年、日本文化学科専門科目、約30名登録、ゼミ論集をまとめた。  源氏物語に関する修士論文を指導し、審査した。
2. 作成した教科書、教材、参考書 ① 演習における論集の作成	2010年	ゼミ論集をまとめ、卒業論文指導に活用した。

3. 学生支援活動 ① 学習支援 ② 生活支援 ③ キャリア支援	2010年 2010年 2010年	学習不振者数名を指導した。 学習不振者に対して、生活習慣の改善を指導した。 ゼミ学生に面接の仕方、エントリーシートの書き方を指導した。
4. 学外での教育活動 ① セミナー講師	2011年1月	学外講座の講師として、与那原町教育センターで「古典文学の楽しみ」を講演した。
5. 教育改善活動 ① 授業評価アンケート ② FD研修会への参加	2010年 2010年	「日本文化論」「日本文学史Ⅰ」の授業評価アンケートで良好な評価を得た。学生にもっと知的な刺激を与えることを課題としたい。 FD委員会が企画した研修会に数回出席し、見識を深めた。

## 研究業績等

### 【 主要論文及び主要著書 】

- 『枕草子・徒然草・浮世草子——言説の変容』北溟社、2001年  
枕草子、徒然草、浮世草子のそれぞれの相違を言説の変容として位置づけたもの。
- 「とはずがたり論」『沖縄国際大学日本語日本文学研究』三、1998年(年次別国文学論文集に再録)  
中世の日記文学とはずがたりにみられるキーワードに着目して、その作品を分析したもの。
- 「平家物語と日付の問題——叙事詩論」同四、1999年(年次別国文学論文集に再録)  
平家物語に頻出する日付に着目して、叙事詩について考察したもの。
- 「説経の構造——不気味なものをめぐって」同五、1999年  
山椒大夫などの語り物にみられる不気味なものに着目し、説経の構造を分析したもの。
- 「近松と西鶴——契約・説得・宙吊り」同一、1997年  
西鶴と比較しながら近松演劇を分析し、契約・説得・宙吊りという特徴を指摘したもの。
- 「上田秋成と戦いの問題——攻撃と待機」同六、2000年(年次別国文学論文集に再録)  
秋成の小説を分析し、そこにみられる攻撃と待機のテーマを考察したもの。
- 「都賀庭鐘論——気象・地形・亡命」同二一、2008年(年次別国文学論文集に再録)  
庭鐘の小説を分析し、そこにみられる言語形象について論じたもの。
- 「近世説美少年録を読む——火・卵・石」同二六、2010年  
馬琴の小説を分析し、そこにみられる物質的テーマについて論じたもの。
- 「開巻驚奇侠客伝を読む——髑髏と飛行」同二七、2011年  
馬琴の小説を分析し、そこにみられる人物形象について論じたもの。
- 「椿説弓張月を読む——言葉の張力」同二七、2011年  
馬琴の小説を分析し、そこにみられる言語形象について論じたもの。

**研究分野**

日本古典文学、日本文化論

**【Eメール・ホームページ等】**

[kuzuwata@okiu.ac.jp](mailto:kuzuwata@okiu.ac.jp)

平成23年10月7日現在